

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム和庵		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年2月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣住民の方々も気軽に立ち寄っていただける『地域に開かれた施設』を目指し、地域の行事に積極的に参加し、ご入居者・職員も地域住民の一員として役割が担えるよう、また地域の方々からも関心を持っていただけるよう、働きかけを行っている。またご入居者の皆様においては、お一人お一人の心身の状態に応じて、炊事や洗濯等、一緒に生活する中で、何かしらの役割を持ち、張り合いを持って生活していただけるよう働きかけを行うよう、スタッフ一同心がけながら職務にあたっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年10月開設した事業所で、近くに市役所やスーパーがあり、利便性の良い地域に位置している。母体法人は複数の高齢者施設を有し、共通理念「尊厳」を掲げている。事業所名「和庵」は地域の中で、又、利用者同士が丸く、和めるように命名している。理念の「尊厳」を支える3項目の事業所理念を職員は理解し、「その人らしい生活を自分の意思で送る」を支える支援に努めている。食事は手作りで、対面キッチンのある広く明るいリビングでは野菜の下ごしらえや盛り付けなど利用者が笑顔で手伝っており、自信に繋がっている。又、管理者は交友のある区長や消防団、地域包括センター等に依頼し、事業所の避難訓練に消防分団の参加や「城下町たすけあい事業」の炊き出しなど協力や交流の輪が広がっている。今後、町内の会合に事業所を提供する案や地域の行事への参加、介護教室の開催や老人会との交流など地域密着事業所として役割を担おうとしている。これからは楽しい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である『尊厳』を柱に、ご入居者お一人お一人が地域の一員として、その人らしく生活していただけるよう、個別ケアを目指してはいるが、開設して間もないため、まだ理想とする形には至っていない。	法人全体の理念「尊厳」と、尊厳を支える3項目の事業所理念を作成し玄関に掲示している。新人職員には採用時研修や支援の中で説明し、浸透を図っている。利用者が自身の力を活かして生活し、その人らしい生活を自分の意思で送れるように、理念に沿った支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々及び介護者の会等の施設見学会・情報交換会をはじめ、地域包括支援センターや地区の区長さん、地元消防団員の皆さんとの連携を図りながら、地域行事や消防訓練等が実施出来ている。	近隣住民とは挨拶を交わし、回覧板を回している。地域「在宅介護者の会」の事業所見学とその後の懇談会や認知症介護相談を受けている。又、地区消防団の行事の手伝いや講習に参加している。開設して5ヶ月だが、今後、介護教室や老人会との交流などの企画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族や見学者、入居相談等の際には、個別に相談に応じてはいるが、まだ地域全体に向けては活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設後間もないため、まだ1回しか開催できていないが、ご利用者の普段の生活の様子を報告し、会議の中で他職種の方々から様々なご意見や施設への要望等を知ることが出来たため、今後の運営・サービスに活かしていきたい。	2ヶ月に1回、規程のメンバーで開催している。運営推進会議では、事業所の活動状況などを報告し、地区の行事活動の把握などを行っている。事業所を地域の会合等の場所へ提供することを提案している。又、委員の提案で議題に介護保険制度の学習を盛り込んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括支援センター職員や保護課担当者等とも、密に連絡を取り合いながら、連携を図ることが出来ている。	市町村の担当課、地域包括支援センターとは日頃から、状況報告や運営上不明な点を相談するなど連絡を取り合っている。管理者が行政担当者と同様であり、良好な関係を築いており、連携体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束0の手引き』を元に、作成した資料を使用し、スタッフミーティングで説明。周知及び共通の理解でケアにあたっている。	「身体拘束0の手引き」を基にした2回の内部研修や、職員会議でスピーチロックを議題にし言葉掛けの「言い換え」を作成し、周知を図っている。又、日々の支援の中でもその都度注意している。落ち着かない利用者には、一緒に散歩したり、ドライブに出掛けるなど拘束の無い支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待にあたる行為であるか、周知すると共に、普段の言葉がけの中でもスピーチロックを行っていないか等、お互いに注意しながらケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング内にて権利擁護事業については紹介・説明は行ってはいるが、現時点では活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明し、理解していただいた上で同意書にサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族代表者の方にも参加していただき、ご意見やご要望を聴く機会を設けている。	苦情の窓口は第三者委員を含め、明文化し契約時に説明している。家族の要望は面会時に出されることが多く、職員は話しやすい雰囲気作りを心掛けている。毎月、請求時に利用者の写真と手紙を添えて家族へ送り喜ばれている。意見箱は家族が入れ易い設置場所を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフミーティングを開催し、スタッフからの気付きや提案を業務に反映させている。	毎月1回の職員会議や日々の業務の中でも意見、要望を出している。又、法人の規定で年1回の面談がある。開設時から業務の改善や行事など職員の意見や提案を聞き、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価の中で、個々の頑張りが正当に評価されるよう普段から目を配っている。また自己評価を行うことで、自分自身を振り返るきっかけとなり、新たな目標設定が行えると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング等を活用し、関係制度の説明や必要な知識を習得する機会を作ってはいるが、まだまだ十分ではないため、今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設にあたり、既存の法人内の各種事業所へ研修・実習に行くことは出来た。今後、定期的に情報交換会や複数の事業所間で勉強会が開催出来ると良い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、事前訪問を行い、ご本人のお困りごとや不安に感じておられること、要望等、じっくりお聴きすることで、少しでも安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様に、ご家族とも入居前に必ずじっくりお話しする機会を作り、相談事や不安に感じておられること等をお聴きし、出来る限り気持ちに寄り添うことが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	形にとらわれず、まずは不安が軽減できるよう、スタッフ全員で出来る限りの対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の心身の状況を踏まえ、残存機能を十分に発揮していただきながら、生活の中で炊事や洗濯等、共同生活を営む一員として、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、日頃の様子をより細かくお伝えし、情報を共有し、外出等の協力をいただきながら、スタッフ・ご家族と一緒にご本人を支援していく体制を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・面会・自宅への外出等の支援は実施できているが、馴染みの人や場所についての関係継続の支援はまだ不足している。	親族の他、自宅近所の住民や知人の訪問がある。利用者の自宅に出掛けたり、馴染みの店に蕎麦を食べに行くなど支援している。開設して間がなく、体制など不十分さがあり、遠方からの利用者の馴染みの場所への支援はこれからのだが、電話を取り次ぐなど工夫し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人お一人の性格や症状等把握した上で、ご利用者同士が上手く交流できるよう配慮しながら、レクリエーションや会話ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の置かれている状況等ふまえて退所後も支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を大切に、日課や趣味、好きな食べ物等もお聴きしながら、アセスメントをとるようにしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、これまでの生活を良く知るご家族に情報提供していただいている。	生活歴を基に、宿泊室や入浴時などの1対1の場面での会話から職員は利用者の意向の把握に努めている。発語困難な利用者は表情やジェスチャーで思いを汲み取り、サービスの提供に努めている。ただし、知り得た情報は口頭のみ共有に留まっている。	職員全員が情報を共有できるよう、記録方法の工夫などを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を大切に、日課や趣味、好きな食べ物等もお聴きしながら、アセスメントをとるようにしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、これまでの生活を良く知るご家族やケアマネジャーに情報提供していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々体調や心身の状況は変化するため、スタッフ間で記録や申し送りを密に行い、気づきを大事に情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろんな視点からの気づきや提案を大事に、プランに反映するよう心がけている。	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月としモニタリングを6ヶ月毎に計画している。利用者には理解しやすい言葉掛けで意向を聞き取り、家族には事前訪問によるアセスメントの中で要望を聴取している。職員は介護計画を理解し支援している。又、家族の同意の署名日は適切である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助記録への日々の様子の記録は勿論のこと、些細な気づきもスタッフ間で共有できるよう、申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対して出来る限りの対応を心掛けてはいるが、サービスの多機能化とまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握・活用までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向を大事に、かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けることが出来ている。	本人・家族の意向に沿い、以前からのかかりつけ医の受診継続を原則としている。受診は職員が支援することが多いが、家族の協力を得ることもある。受診内容は電話で家族に報告し、「受診記録簿」に記載し職員で共有している。緊急時は看護師、管理者に連絡し指示を仰ぎ、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連携と情報の共有を図りながら、早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう可能な限り面会に行き、病状の把握や病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や意向の確認は勿論、病院受診結果等もこまめに報告しながら、必要に応じてご家族にも同行受診していただき、主治医と一緒に話し合いを進めていくようにしている。	明文化した指針があり、利用開始時に家族へ説明し同意書を交わしている。地域の特性上、夜間の往診体制が無く、看取りについては家族の希望があれば検討するが、現在、看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護経験や病気に対する知識の少ない職員も多く、まだまだ急変時や事故発生時の適切な対応ができるとは言えない。職員全体のスキルアップや連携、緊急時の対応方法も学んでいく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては地域の消防団員の協力も得ながらの消防訓練を行い、地域との協力体制作りにも努めている。また火災予防としては毎日の自主点検や見回りをしながら予防に努めている。	本年度は1月に消防署立会いの下、地区の消防団も参加し総合訓練を実施している。2階に緊急避難用の滑り台を設置している。自然災害時の防災計画書を作成し、避難場所も明確で非常持ち出し品の整備や法人全体で水や米など2週間分の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについての話し合いをスタッフミーティング内でも議題に取り上げ、お互いに意識して改善するよう心がけている。またケアの内容についても常にご利用者目線であるよう対応に努めている。	事業所は、理念の「尊厳」を支える支援を目指す事を表明し、職員は利用者者に基本、敬語で接している。職員には守秘義務の誓約書を取っており、SNS利用の注意も喚起している。又、家族に個人情報利用や写真掲載を説明し、承諾書を得て保管している。個人情報の書類関係の保管場所は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談がしやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや希望を遠慮なく表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の日課やこれまでの生活スタイルを事前に把握した上で、そのペースを崩さないよう心がけている。またその日の体調や気分をお聴きしながら支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る洋服はご本人に選んでいただきながら、ご本人の意向を取り入れ、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの相談をはじめ、野菜の皮むきや材料を切っていただいたりと、一緒に食事を作り、食べることで、より食事を楽しんで頂けるよう支援している。	献立は調理師の資格を持つ職員が、利用者の希望を取り入れて作り、対面キッチンで調理している。利用者は野菜の下ごしらえや盛り付けなど出来ることを手伝っている。郷土料理を取り入れたり、祝いには獲りたての魚を使った刺身や恵方巻、ぼたもちを利用者と一緒を作るなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量も日誌に記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の義歯・残歯の状態を把握した上で、朝・夕の口腔ケアを支援し、清潔維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、排泄間隔にあわせてトイレ誘導を行いできるだけトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。	管理者は職員に排泄の自立支援の意味を指導し、職員は理解している。職員は排泄チェック票を付け、利用者の排泄リズムを把握し誘導支援し、利用者の改善に向け提案している。利用者のリズムに合わせた誘導でおむつからリハビリパンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を十分に摂ることは心がけているが、運動への働きかけがまだまだ不十分と感じる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日は入浴できるよう浴室の準備を行っている。個々の体調や気分に応じて対応出来ている。入浴の時間帯については、選べるよう時間の幅を持たせている。	入浴は日曜日以外は毎日準備し、利用者は体調や希望に応じて午後から入浴している。好みのシャンプーや石鹸などを使用したり、仲の良い利用者同士で入浴する時もある。拒否の時は時間を変えたり、好きな音楽を掛けるなど工夫し誘導している。柚子湯など入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んで頂いているが、夜間の睡眠に影響がないよう配慮・働きかけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気と内服薬についてはスタッフ皆で情報を共有し、新たな薬が追加された時は申し送りノートを活用しながら、服薬支援・病状の観察を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品、レクリエーション等、随時行っているが、まだまだ取り組みの内容が少ないため、今後の課題である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	秋口の暖かい日は近隣への散歩や買い物等、希望に沿って実施出来ていたが、今の季節、寒くなり外出の頻度は減っている。ご家族からの外出支援は継続して協力いただいている。	昨年10月の開設当初から、天気の良い日は毎日のように、車椅子の利用者も一緒に散歩に出掛けている。又、利用者の希望に応じて個別に買い物に出掛け、遠出のドライブや外食などは家族の協力を得ている。春に向け、花見や景観の良い公園などへ外出の計画がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ家族の意向を聞きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預かり金として、スタッフが管理の支援を行いながら、適宜買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れたご家族や友人に電話をかける支援や、手紙の宛名の確認等、支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他、明るさ、温度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫している。	木の香りが心地よいリビングは、ゆとりのある広さで、テーブルやソファ、観葉植物が置かれ利用者は思い思いの場所で寛いでいる。対面キッチンで職員が作る料理の匂いや音は、利用者の五感を刺激している。空調調整や掃除は、職員が毎日行い、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファなどを複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人でくつろぐ時間等が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を可能な限り居室に持ち込んでいただくようにご家族にもご協力いただき、本人が心地良く過ごせる空間になるようにしている。	居室はベッドとクローゼットが備えついで、利用者はふとんや筆筒、仏壇など馴染みの物を持ち込み、家族の写真や時計を置いている。持ち込みが少ない利用者は、家族に相談し整えている。掃除や換気は職員が毎日行い、居心地良く過ごせるよう支援している。しかし、日中のポータブルトイレの収納に課題がある。	居心地良い居室の設えとして、日中使用しないポータブルトイレが目につれないような工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく・わかりやすく、且つ安全面にも配慮しながら、自立した生活が送れるよう配慮している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム和庵		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年2月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣住民の方々も気軽に立ち寄っていただける『地域に開かれた施設』を目指し、地域の行事に積極的に参加し、ご入居者・職員も地域住民の一員として役割が担えるよう、また地域の方々からも関心を持っていただけるよう、働きかけを行っている。またご入居者の皆様においては、お一人お一人の心身の状態に応じて、炊事や洗濯等、一緒に生活する中で、何かしらの役割を持ち、張り合いを持って生活していただけるよう働きかけを行うよう、スタッフ一同心がけながら職務にあたっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今後、施設の理念尊厳をもとに職員間で共有し入居者の尊厳を守り支援していけるよう努めていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で行われる行事にはできるだけ参加し、地域とのつながりを作っている。(炊き出し参加)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方に施設内の一角を利用していただき、老人クラブや集会などを通じ認知症の方への理解や支援ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1度目の開催では、地域、家族、包括の方等参加していただき、運営方針や入居者の状況等を話したり、家族の悩みとか色々な意見が聞け、今後の課題として受け止めていけるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域の連絡会議など定期的に行なっています。今後もこまめに連絡を取り合い、お互いの理解に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束は行わないよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症に対する理解を深め、日頃の職員との話の中で、ささいな変化にも気づけるなケアができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今度必要に応じ活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時の疑問、不安を聞いたり、契約時には重要事項説明書や利用者契約書の説明を行い、よりよいサービスの提供ができるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が意見を言いやすいようお互いに何かあった時はすぐ連絡している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案等聞き入れ安い体制や関係性を作り会議を利用し可能な限り会話する機会を作るよう努めていく。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、人事評価を行い職員の実績を具体的に評価したうえで今後の個々の目標設定を行えるようしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる知識や技術については、会議等や機会を設け身につけてもらえる取組を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネさんや包括とも何かあるごとに連絡しあい同事業所でも状況話したりできる体制につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時での家族、ケアマネ等からの情報をもとに、少しでもご本人に不安をあたえないような対応ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族の不安、悩み、施設の考え、思いなど、お互いに理解し共に考えていけるようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、サービスが利用できるような体制を作るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしている気持ちで接していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	クリスマス会を利用し、家族お話し、お互い協力していける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだまだこちらからの働きかけが行えていないので、今後検討していきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できることは、お互い協力していただき、助け合いながら支援していけるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の置かれている状況等ふまえて退所後も支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどうしたいのかを考え、性格、生活歴等をふまえ、ご本人の意思を尊重した関わりができるよう努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を行えるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意思を確認しながら無理のないような支援に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に今必要なニーズの把握に努め、関係者と話し合い進めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大切な部分は赤字、線等を使い工夫しながら支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設の入居者等見学に来所されたりはあるが、今後色々検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後、より意向に沿った支援ができるよう努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医師との連携により、今後も引き続き受診できるよう継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や相談したい事は記録したり共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう可能な限り面会にも行ける体制づくりに努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時今後どのような形を望んでいるか確認し施設の方針や家族の考えをうまえ方向性を共有できるように努めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間での連携や今後の対応も学んで冷静な対応ができるよう学んで行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては避難訓練を通じて地区との連携を行い日頃から意識ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今後日々の生活の中で関わりを持つよう意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れには特に気を付けご本人の意向を取り入れられるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを決め職員も一緒に会話しながら食事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量も日誌に記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアを行い、清潔維持に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、間隔にあわせトイレ誘導を行いできるだけトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今後体操等を行い体を動かしてもらえるよう支援していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外はできる環境だが、主に昼過ぎに行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休んで頂いているが、夜間安眠ができないような働きかけは常に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し新たな薬が追加された時は状態にの観察を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今後ご本人が楽しみと思えることについて考えていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温かくなってきたら外出の機会を作りなるべく出かけられるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ家族の意向を聞きながら自己管理をしていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今後色々な形で取り組んでいく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他、明るさ、温度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファなどを活用し気の合う入居者同士や職員との関わりが持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を可能な限りいれてもらうようにして本人が心地良く過ごせる空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今後リスクがある部分への対応を検討し、自立した生活が送れるよう支援していきたい。		